

令和2年度 第1回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録	
日 時	令和2年7月6日（月）午後1時00分から午後4時00分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室（オンラインによる開催）
次 第	<p>1 開会のあいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>（1）令和元年度 自己評価の報告について</p> <p>（2）令和元年度実施 中期事業評価（定性評価について）</p> <p>（3）令和元年度 外部評価について</p> <p>（4）その他</p>
出席者	<p>小谷泰弘委員、坂本和弘委員、柴田徳思委員長、杉浦幸子委員、桧森隆一委員（五十音順）</p> <p>事務局：手塚事務局長、豊田管理課長、小菊主任、原主事、</p> <p>プランニング・ラボ（村井代表）</p> <p>指定管理者：高柳館長、廣澤統括マネージャー、高橋リーダー、伊藤統括補佐、角田リーダー、高尾リーダー、齋藤リーダー、石山リーダー、原主任研究員</p>
決定事項	● 令和元年度外部評価について
資 料	<p>資料1 多摩六都科学館事業評価報告書（案）</p> <p>平成29年度～令和元年度（3カ年）の中期計画における令和元年度（2019年度）実績報告ならびに事業目標の達成度などに関する評価報告</p> <p>資料2 令和元年度（2019年度）市民モニター定性評価資料集</p> <p>資料3 令和元年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者事業報告書</p> <p>資料4 多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表及び利用料金集計表（歴年度対照表）</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者業務事業計画書</li> <li>・多摩六都科学館中期事業評価事業目標ならびに3カ年の取り組み状況ミュージアムを中心とした地域の多文化共生プロジェクト報告書（2019）</li> <li>・多摩六都科学館パンフレット（中国語・韓国語）</li> </ul>
記録方法	要点記録
特記事項	委員会後総括的な意見等の欄を記入し、事務局にメールで送る。
<p><b>凡例</b> 発言者の略記（長：事業評価委員会委員長、委：事業評価委員、組：多摩六都科学館組合、指：指定管理者、プ：プランニング・ラボ）</p> <p>1 開会のあいさつ</p> <p>高柳館長、手塚事務局長より開会の挨拶</p>	

(1) 令和元年度 自己評価の報告について

組：令和元年度の事業評価の進め方について説明

指定管理者よりプレゼンテーション事業評価報告書の定性評価部分を中心に説明

(資料1、資料3を併せて説明)

(別途資料3の補足説明資料を画面共有し説明)

評価報告書の4ページ目、科学館事業の自己評価

① 科学館事業

(1) 4つの企画展

今年の春に予定していました「ロクト運動サイエンスパーク」は、令和2年の夏の企画展として開催する予定です。昨年の春の企画展は「文房具展」を5月6日まで実施しました。それから、4番目の冬の「ロボットパーク」は毎年冬に開催しています。夏の企画展は「昆虫展」を実施しました。(3年に1回実施)秋の企画展は「つむぐ展」繊維というものを題材にして実施しました。(個々の企画展の趣旨(集客性・地域の魅力発信)について説明)

(2) 天文映像活動

プラネタリウムは2カ月に1回テーマを変えて実施。大型映像は6種類を上映しています。そのほかに、キッズプラネタリウム、東北大震災のときの仙台市天文台がつくった「星空とともに」、小さいお子さんですとか障害をお持ちの方でも気楽に入れるようなおもいやりプラネタリウム、それと夏休み、お盆の期間の投影内容について説明。

学習投影について、圏域市の各学校の来館数について説明。

体験学習(ラボ)について説明。気軽に観察・実験・工作ということで、ラボを実施していますけれども、今年度延べ6万8,000人が何らかの体験をしています。しくみラボ(プログラミング説明)しぜんラボ、ちきゅうラボで、それぞれ必ず体験していると。6万8,000人といいますと、大体来館者の4分の1くらいとなり、子どもが大体半分いるとすると、お子さんの2人に1人は必ず何かを体験してお帰りいただいているということになります。じっくり取り組むプログラミング教室も実施しています。

評価報告書の4ページ、自己評価説明。昨年度に引き続きプログラミングについて記載しています。令和2年度からプログラミング教育が始まり、昨年度もプログラミング教育は非常に重要になってきています。

事業報告書の33ページについて説明

アウトリーチ活動というのがあります。年間10回のうちの9回、これがプログラミングの内容を実施して欲しいと学校から依頼されたものになります。学校の関心の高さ、危機感やニーズというのがますます大きくなっているなど感じています。

事業報告書40ページ、41ページについて説明

講演会などですけれども、日本の名だたる教育機関の方に来ていただき多数の講演会等をやっております。主に中高生から大人を対象として大学、研究機関、民間企業等から研究者を招いて、最先端の科学技術を分かりやすく解説するというところでやっています。サイエンスレクチャー、サイエンスカフェ(食品)全英語のサイエンスカフェについて説明。

事業評価報告書 2、3ページ ①科学館事業 ⇒自己評価 「A+」良好

## ②地域拠点事業-1

### 事業評価報告書の7ページ目、自己評価

地域拠点事業の1番目というのは、生涯学習拠点、社会参画ということを主に記させていただきました。ボランティア活動について説明。事業報告書の52ページを説明。「たまるく☆サイエンスラボ」、ワークショップ、アウトリーチ活動について説明。非常に幅広く活動していることがお分かりいただけると思います。(新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ボランティア活動を2月26日から休止している。)

文化庁の助成金事業について説明。文化庁の地域と協働した博物館創造活動支援事業で、「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」というので応募し、採択されています。助成金額200万円のプロジェクトで、日本に住む外国にルーツを持つ人たちの場として、多摩六都科学館はそのような方にも来ていただける場にしようという活動です。外国語にルーツを持たれている方の言葉をどうするか、英語というのは共通語だと言われていても、英語を話すことができる方は3割程度である訳で、外国人の方にも理解できる日本語としてやさしい日本語を使うことをまず考え、職員研修を実施する中で、各ワークショップ、やさしい日本語でのワークショップ、やさしい日本語でのプラネタリウムというものを開始しています。(CAMOC参加者の見学について説明)

社会参画ということで、ソーシャル・インクルージョンをテーマに活動しています。0歳からのプラネタリウムについて説明。(全体で5回実施し、このうちの4回が満席で、残りの1回も残りわずかのところで満席に至らなかった。これは開館25年の中で初めてのことです。乳幼児のお子さんがいらっしゃるご夫婦やご家族が行く場所をこんなに求めているということ、改めて考えさせていただきました。ただ、この事業も残念ながら密になる状況が懸念されますので開催は難しいかと考えています。

事業評価報告書 5ページ ②地域拠点事業-1 ⇒自己評価 「A+」良好

## ③地域拠点事業-2

### 評価報告書の9ページ目、自己評価

#### 事業報告書の45ページ～48ページを参照

地域拠点や魅力の発信という部分での地域拠点事業の説明

外部の団体との協働した、または協力、共催といった事業について説明。

「ダンス de 科学」(明治薬科大学セルフメディケーション学研究室)

運営連絡協議会「北多摩の農と食」をテーマに実施した農と食のお話会

地域との拠点というのは実にたくさんの団体、個人、法人とコラボレーションして様々な事業を開催しているという事例になります。

事業評価報告書 8ページ ②地域拠点事業-2 ⇒自己評価 「A」適正

#### ④マーケティング

事業評価報告書の 12 ページ目、自己評価

事業報告書の 61 ページ参照

紙媒体の一式を説明。令和元年度からロクトニュースは年間6部出す予定でしたが、残念ながらコロナウイルスの影響で最終号の発行は中止せざるを得なかった。印刷まで終わっていたけれども、発行は中止するという事態になっています。

韓国語と中国語のパンフレットについては、文化庁の多文化共生の助成金で作成しました。

声かけによるアンケート調査について説明。

事業報告書の 87 ページ参照

毎年のアンケート結果の変化に応じて対応していきます。

事業評価報告書 11 ページ ④マーケティング ⇒自己評価 「A」適正

#### ⑤財政計画・体制整備

事業評価報告書の 15 ページ、自己評価

昨年度の自己評価の記載にもあるスタッフのスキル向上について説明  
(企画展をはじめ教室やワークショップ・イベント等はほとんど内製することにより、費用の削減や、スタッフのスキル向上にはつながっている。)

昨年度課題として記入した収益構造の改革について説明  
来館者数の増について頭打ちになっている中で、スタッフの人件費を確保するかということ  
で、収益構造の改革を進めています。

指定管理者（株乃村工藝社間での連携事例）事業報告書の 43 ページ参照

助成金（文化庁の助成事業の事例）による多文化共生事業の説明（助成金額 200 万円から 500 万円に増額）、ならびにこの中でソーシャル・インクルージョンを中心とした取組を実施していければと考えています。また、自主事業（ショップの売り上げは令和元年度昨年比 34%増の 2,400 万円、ドームを使ったイベント、コンサートとは 68%増の 300 万を超える。収益構造を変えていくということは今後とも進めていきたい。

事業報告書 82 ページ参照（令和元年度は 22 万 5,867 人）12 月の時点で平成 28 年度よりも 1,000 人多かった。しかしながら 3 月の休館があったため過去最高の利用者数は叶わなかった。

事業評価報告書 14 ページ ④財政計画・体制整備 ⇒自己評価 「A」適正

長：それでは、組合のご説明をお願いします。

組：組合より自己評価の報告

多摩六都科学館組合の自己評価について、業績指標の主なものの実施状況を中心に説明します。

#### ①事業計画 自己評価

##### 評価報告書の19ページ目、自己評価

14ページ、業績指標欄のうち、ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組、圏域内でのアウトリーチ活動の推進について説明

実施状況はまだ十分とは言えませんが、一定の水準には達することができたものと考えています。ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組では、在住外国人をターゲットとした多文化共生推進プロジェクトを指定管理者とともに立ち上げ、組合からも2名の職員がたまるくミュージアム多文化共生推進委員会のメンバーとして活動しました。本プロジェクトは文化庁の助成金を主な財源とし、博物館等における多文化共生の取組実態調査として、国内の博物館に対して多文化共生に関するアンケート調査の実施や、国内先進施設4施設へのヒアリング調査を実施するとともに、科学館の多文化共生及び多言語化へのサービス向上のための環境整備として、多摩六都科学館Webへのやさしい日本語ページ実装に加えて、外国にルーツを持つ圏域在住外国人向けに、アプリを使用した科学館の絵本づくりや、「やさしい日本語でプラネタリウムを楽しもう」などの特別講座を実施いたしました。

このほか、昨年度に引き続き、圏域市ウイークを実施しています。昨年度の委員会でも、今後は内容の工夫をする必要を感じるというご意見があったことより、まだまだ私たちが出会ったことのない新たな地域資源の価値発信につなげられるよう、企画段階より指定管理者とともに西東京市民まつりなどの圏域の各種イベントに出向くなどの事前調査を通じて、本プログラムの魅力向上に積極的に取り組みました。

この結果、圏域市民の認知度の向上とともに、利用者数、無料シャトルバスの利用者数とともに、対前年比で約16%増の成果を上げることができました。圏域内でのアウトリーチ活動の推進については、実施は指定管理者となりますが、組合も強い課題意識を持ち、指定管理者とともに圏域公立小中学校の校長会でのPR活動に出向いたり、アウトリーチ活動に出向き、情報収集を行ったりするなど積極的に取り組みました。

アウトリーチ活動の推進とは離れてしまうのですが、このような取り組みにより、学習番組の申込みを1件獲得できたということも1つ成果として表れています。

あと、科学館へのアクセスが不便な地域を重点的に、圏域公立施設、清瀬市立の中央図書館と新規に連携したアウトリーチを夏休みに実施するなど、市民サービスの充実を図るとともに、生涯学習拠点としての圏域の地域づくりに生かすことができるよう取り組みました。

恐れ入りますが、17ページを御覧ください。こちらの業績指標欄のうち、ボランティア活動の成果を発信、圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施、長期的

な観点を持つての取組については、評価結果欄を御覧いただきますと、こちらはまだ実施状況としては十分とは言えませんが、一定の水準には達することができたものと考えています。

ボランティア活動の成果を発信では、圏域外の行政関係者の視察機会は、令和元年度はほとんどありませんでしたが、構成市の新人職員研修や構成市のインターンシップ学生が来館されたときには、積極的にボランティア活動を紹介し、圏域市民を中心とした当館のボランティア活動が高い評価を受けていることを発信してきました。

圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施については、圏域構成市ごとの圏域市ウイークを5月から1月までの奇数月に実施しました。実施は、指定管理者となっていますが、組合が引き続き構成市や商工会の窓口としての役割を持ち、間接的ながら地域づくりプログラムの実施に関わってきました。

以上、これらに基づく定性評価ですが、18 ページの自己評価欄で、「多文化共生プロジェクト」や「圏域市ウイーク」の実施において、対前年比で増の成果を上げることなどによりAとさせていただきます。

事業評価報告書 17、18 ページ ①事業計画 ⇒自己評価 「A」適正

## ②経営計画 自己評価

### 17 ページ、業績指標の評価結果を説明

こちらはまだ十分とは言えませんが、施設の長寿命化計画の検証並びに作成を除いて、一定の水準には達することができたものと考えています。施設の長寿命化計画の検証並びに作成については、昨年度も委員会でご説明させていただいておりますが、令和3年度ごろに実施を予定しておりますので、検討としています。

市民モニター制度の実施については24 ページをご覧ください。9名体制で12月と3月の2回、意見交換会を開催いたしました。3月の意見交換会は、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、書面による開催としました。意見交換会では、サービスの提供主体であります指定管理者及び組合が、科学館の様々な事業活動に対する継続的な視点による定性的な評価を得ることができるとともに、市民目線によるご意見を自らの振り返りにおける運営改善の気づきや市民サービスの向上に反映させることができていると考えています。

ネーミングライツの検討・圏域5市が共同で実施する助成事業の継続実施につきましては、先ほどの事業計画の自己評価でも触れましたが、指定管理者と連携し、文化庁の助成金を活用して、在住外国人向けサービスを促進することができたことは大きな成果となったと考えています。しかし、ネーミングライツ事業に関しましては、ネーミングライツパートナーとしてのメリットを最大限に得ることができないことなどが影響しているのではないかと考えています。昨年度の委員会でも、ネーミングライツの検討に当たっては、来館者や未利用者を含めた広範囲の意見を聞いた上で進めるべきだと思つたのご意見をいただいておりますので、引き続きアンケート調査などによって圏域市民のご意見などを聞きながら、本事業の検討を進めてまいりたいと考えています。

外部資金による新たな自主財源の獲得に関しては、施設の老朽化が進展していることに対して、今後も安定的な施設運営を継続していく上でとても重要なテーマであることから、クラウドファンディングなどの別の手法の導入可能性についても先進事例などを研究し、検討していきたいと考えています。

財政計画の検証・改訂については、平成30年度より策定に入り、平成31年4月に完了しました。昨年度の委員会でご報告をさせていただいた内容となります。

以上、これらに基づく定性評価ですが、18ページの自己評価欄で市民モニター制度や外部資金の導入などの取組や課題を整理し、Aとさせていただきました。

事業評価報告書 21ページ ①経営計画 ⇒自己評価 「A」適正

### 市民モニター定性評価について補足説明

プ：資料2の市民モニター定性評価関連資料集の説明

書面開催により意見交換会を実施したことによるコメントの少なさとオプションの評価者が少ないことなどについて説明。

市民モニターの業績指標の一覧（1ページ）で特に変化があった点が2つあります。事業目的別で言いますと、科学館事業の中の2番目の指標、ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組です。平成30年度評価から令和元年度評価の方が上がっています。同じAですが、平成30年度はBに近いA、昨年度はA+に近いAという評価をいただいています。取り組んできたことを徐々に評価していただいている結果となっています。

地域拠点事業の地域づくりのための交流事業の実施に関しましては、平成30年度評価はBでしたが、令和元年度評価はAで、Bに近いAということで評価が上がっています。

中期評価になりますが、昨年度と比べるとそれほど変わっていませんが、新規で検討されたのが地域拠点事業の中の交流拠点の4番目、コミュニティカフェの導入によって新たな地域コミュニティの交流・社会参画の場として機能しているかですが、こちらは中期の指標に移行し、令和元年度に初めて評価を実施しました。こちらの評価はAとなっています。注1のコメントをご覧ください。科学館という枠組みの中でできないことが多々あるが、積極的に取り組んでいる姿勢と中期的な観点から期待を込めてA評価とする。今後思いきり事業展開できるよう枠組みなどの検討をしてほしいということをコメントとしていただいています。

それから、マーケティングで新規の指標として中期ですけれども、市民から愛される科学館としての評価、これはA、A+に近いAという評価です。

2ページ目ですけれども、オプションで実施している評価結果です。特に大きく昨年度から変わっているところというと、多摩六都の交流拠点になります。先ほども評価はアップしていました。事業目標で言いますと、Aに近いBという評価なっています。ただし、評価をしてくださった方が、人数が少ないということがありますので、参考で見ただけだと思います。以上です。

組：議題（２）に移ります。令和元年度実施の中期事業評価（定性評価）について、事務局からご報告をさせていただきます。報告が終わりましたら、委員の皆様方から質疑をいただく予定になります。

議題（２）令和元年度実施の定性的中期事業評価調査の結果について  
事業評価報告書 32 ページ

（２）調査の目的について説明

現在、当科学館の事業運営において運用している第２次基本計画は、10年間の計画期間のうち中期３カ年で事業方針を定めるとともに、事業目標の達成度や事業の進捗状況などを検証し、見直しをすることとしています。令和元年度は第２次基本計画の中期第２期の最終年度に当たるため、「ローリングプラン 2016」から新たに取り組んでいます「地域づくり」と「ソーシャル・インクルージョン」に対する当館の取組姿勢やその方向性を評価するとともに、現状の課題や今後の可能性についても検証、分析することを目的として、中期的な観点からの事業評価として圏域市民調査等を行いました。

（３）の調査方法について説明

対象を圏域市民と事業実施者である指定管理者とに分けて調査を実施しました。圏域市民を対象とした調査は、構成５市の企画担当課や市民モニターなどから、地域で実際に地域づくりやソーシャル・インクルージョンの活動に従事している圏域市民 10 名を推薦していただきまして、9 名の方にご出席をいただき 2 日間に分けてフォーカスグループインタビューを実施しました。参考資料としてお配りした「多摩六都科学館中期事業評価事業目標ならびに 3 カ年の取り組み状況」に基づきまして、地域づくりとソーシャル・インクルージョンの平成 29 年度から令和元年度までの 3 カ年度分の取組状況について組合より説明をし、質疑応答を行った後に評価及びコメントをいただいた内容となります。

事業評価報告書 31 ページ

組：「ローリングプラン 2016」より加わった新たな重点戦略並びに業績指標のうち、地域づくりとソーシャル・インクルージョンについての平成 29 年度から令和元年度までの 3 カ年の主要な取組について説明。（各年度の評価報告書の自己評価内容をもとに、指定管理者と組合でその取組を検証し、各事業で整理、分類。各取組の拡がりを見本資料をご覧ください。）

業績指標 1、地域づくり（地域のハブ機能）に関する取組について

I 各年度の企画展示の取組

各事業を実施する際には、基本計画にある活動理念と 5 つの事業目標に基づき、地域づくりやハブ機能について取り組み、企画展では、参加者同士、講師等の人的交流を通して、六都エリアの魅力や地域資源の再発見につながる内容となりました。（令和元年度「文房具展」「つむぐ展」などに見られるように多様なテーマを科学の視点で紹介し、科学館未利用者に対するアプローチにつながった。）

## II 市民感謝ウイーク（令和元年度より名称は圏域市ウイーク）

平成 30 年度から奇数月に圏域 5 市ごとの感謝ウイークを実施し、さらに企業等との連携は進みつつあり、市民ウイークは市民モニターからのご提案もあり実施に至っている事業です。（対象の市民の入館料が割引、令和元年度は各市の食と農の体験会やお話会などの事業を実施、特産市や、ミュージアムショップでの委託販売の事例を紹介）また 3 月実施の感謝デー同様に、主要駅から無料シャトルバスを運行し、科学館を訪れたことがない方にも、圏域市ウイークをきっかけに科学館にご来館いただけるよう交通アクセスの改善にも取り組んでいます。

### 業績指標の 2、ソーシャル・インクルージョンに関する取組について

科学館全体でソーシャル・インクルージョンに取り組む姿勢や方向性についてご検討ください。

#### 取組事例 3 つ紹介

I として、大人向け平日講座プログラムの多様化についてです。多摩六都科学館の使命にありますとおり、誰もが利用しやすい科学館を目指す中で各種取組を行い、平日利用者数の増を試みる中で、シニアへの生涯学習機会の提供と充実したプログラムを計画し、プログラムの対象の多様化に答え得るプログラムを実施しています。大人のカフェ&シアターについては、先ほど I の企画展の中でご紹介した東久留米市出身のアーティスト、大小島真木さんの描く全 88 のオリジナル星座絵のプラネタリウム番組と科学館のカフェとのタイアップによってキャンペーンを実施した結果、平日にも関わらず、ほぼ満席となる観覧者数となりました。初めて科学館を訪れた人も多くいらっしゃいました。カプラのプログラムは、シニアの方向けのアウトリーチとして実施しています。

誰もが利用しやすい科学館を目指す中で、プログラムの対象の多様化に対するプログラムを生涯学習施設として幅広い年代層に対応する形で実施している事例をご説明いたしましたが、その広報については、その事業の対象となる方に分かりやすく表示し、多様な媒体を介して情報発信することができているかを振り返り、改善していく中で、今まで利用に至らなかった対象の方々が科学館を知り、利用につながっています。令和元年度には、「0 歳からのプラネタリウム」及び大人向けプラネタリウムを圏域市ウイークに合わせて実施し、0 歳児の親世代やシニア世代の生涯学習機会の充実に向けて取り組んでいます。

続きまして、ソーシャル・インクルージョンの II として、学習の手引きのリニューアルの取組についてご説明いたします。「多摩六都科学館ガイドー学習利用の手引きー」は、科学館利用を検討している方に、おすすめモデルコース、プラネタリウム、展示室、予約制プログラムについて分かりやすくご案内し、科学館を利用したいと思っていただけるような工夫をして、リニューアルを重ねています。圏域 5 市の小学校 4 年生については、ほぼ全校利用となっている状況ですが、様々な理由で全校利用とならない現状があります。体験を通して学ぶ場を先生と共につくっていく科学館であることを表明し、学校での学びに深く関わる利用手法を検討しています。指定管理者の報告にもありましたように、令和元年度アウトリーチの実績として、圏域小学校 10 校のうち 9 校がプログラミングを希望しているなど実績は積み重ねてきています。また、利用実績がない学校については、その現

状をお聞きし、科学館として取り組むべき内容をローリングプラン等に照らし合わせながら実施できるよう、これから努めていければと思います。

最後に、ソーシャル・インクルージョンのⅢとⅣをまとめ、多文化共生を目指す科学館としての取組についてご説明させていただきます。誰もが利用しやすい科学館として、科学館のホームページ等では多言語化対応に取り組んでいます。科学館パンフレットや科学館が発行する広報物は、ユニバーサルデザインフォントを採用し、見やすく分かりやすい情報をお届けするよう心がけています。また、やさしい日本語の取組も始めています。外国にルーツを持つお子さんに向けた内容として、やさしい日本語による説明で実施する「科学館の絵本をつくろう」のワークショップも開催しました。

2つ目の事例として、ミュージアムを中心とした多文化共生プロジェクトについてご説明させていただきます。平成30年度に文化庁の助成事業として申請し、平成31年度に採択された事業で、令和元年度より実質的に取組が始まっています。多文化共生の先進地域に職員が研修に出向き、科学館での事業実施に生かすことにつなげています。I COM西ツアーの際には、構成市の協力を得ながら、地域資源を海外の方々にご紹介することで、地域資源の再発見をする内容となりました。

最後に、平成29年度から令和元年度までの3カ年の主要な取組（特記事項）を説明。友の会の再編（回数券としての機能、特典機能を別々に分けたこと）の説明。

年間フリーパスは購入日から利用できるパスポートで圏域市民であれば、大人1,560円、お子様630円で入館ができます。これは通常料金の3回。その他の地域の方は、大人の方2,080円、お子様840円で科学館の入館ができます。通常料金の4回の金額です。平成30年度の実績で、平均4.5回の利用回数です。

ロクトメンバーズ（メンバーシップの取組み）の説明

主な特典は、限定・優先イベントに参加できる。科学技術館、所沢航空発祥記念館、日本科学未来館の入館料が割引になる、ロクトニュースやメンバー限定のお知らせが届くことという内容が主なものです。有効期間は年度です。圏域市民であれば、大人750円、お子様が300円、その他の地域の方は大人1,000円、お子様が400円。メンバーズの特典を受けることができます。科学館の入館には別途料金が必要となります。このロクトメンバーズの特典などの付加価値については、メンバーズの皆様の声をお聞きしながら検討を重ねています。

プログラミング教育への寄与について説明

平成29年度末の機材購入に始まり、平成30年度、令和元年度と実施内容も発展し、継続してニーズに応え得る環境を整えています。2020年度の学習指導要領改訂に併せて、引き続きプログラミング学習について学校教育の現場での問合せも多い状況です。令和元年度のアウトリーチ活動では、プログラミング内容を希望する学校がほとんどを占め、市民モニターの見聞交換会では、子どもたちが今後新しく学ぶプログラミング学習について、興味、関心の高さがうかがえました。「子どもが学ぶことを親としても学んでみたい。」「スタッフやボランティアから指導を受けた保護者がプログラミングを学校で教えてはどうか。」などの発展的な提案もいただきました。近隣の学校の協力を得てプログラムも実施しています。

組：今の内容が市民を対象にしたフォーカスグループインタビューで組合が行った説明です。もう1つは、事業実施者を対象とした調査を市民の方の評価結果と比較分析することを目的に実施しました。

(3) の調査結果について説明 事業評価報告書 25 ページ

総合的な段階評価 地域づくりはA+、ソーシャル・インクルージョンはA

地域づくりにつきましては、9人中5人の方にA+、4人の方にAの段階評価をいただきました。コメントとしましては、地域づくりを主な目標に掲げているのはすばらしいとか、いろいろな方向に目を向けて活動しているなどの成果や取組に対する評価コメントをいただく一方、計画に即して目標を達成しているかという達成していないが、内容の改善は必要ない。地域づくりは時間がかかるものだと思っていると、まだまだできることもありそうな気がするというような今後の課題や今後への期待のコメントなどをいただいています。

次に、ソーシャル・インクルージョンにつきましては、9人中4人の方にA+、4人の方にA、1人の方にBの段階評価をいただいております。コメントとしましては、0歳児からのプラネタリウムは成果を上げていると思う。ソーシャル・インクルージョンは多岐にわたることなので、まだまだ道半ばと感じる。終わりが無いなどの成果や取組に対する評価コメントをいただく一方、高校生もいつでも行ける状態だとうれしい。全世代という点で改良の点を感じるとか、あとは多文化共生では弊害があり、この先、発達障害のお子さんやディスクレシア等、感覚障害の人たちに向けたチラシづくり、サイン整備など、継続的に取り組んでいただきたいなどの今後の課題や今後への期待のコメントをいただいています。

続いて、2つ目の事業実施者を対象とした調査についてですが、各事業を実際に運営している指定管理者のグループリーダー等7名に対し、web アンケートを行っています。結果については、25 ページ左側の下の表のとおりです。市民調査による評価結果との比較におきましては、地域づくりに関しては、市民と事業実施者との段階評価に大きな違いはないことが分かりました。ソーシャル・インクルージョンに関しても市民の評価は高くなっていますが、コメントを見ると、取組姿勢を評価している傾向にあり、実際の成果に関する段階評価は、事業実施者の評価が現実に近いものと考えています。

定性的中期事業評価の総評結果について説明

3カ年（平成29年度～令和元年度）の地域づくりの達成度の総評 A+に近いA、ソーシャル・インクルージョンの達成度の総評はAに近いBとすることとしています。

本調査業務につきましても、プランニング・ラボ村井さんにご協力をいただいておりますので、補足説明等をお願いいたします。

プ：定性的評価を令和元年度に実施した理由について説明

ローリングプランを2016年度につくり、まだ取り組み始めて3年で、定量的に調査をかけても市民の方たちが判断できないのではないかとということで、圏域に出て市民調査を行うことはこの後、先に回しました。昨年度は、定性的に段階評価をしていただく内容で実施しています。その際、地域づくり、ソーシャル・インクルージョンに実際に地域で取り組んでいらっしゃる方をお呼びして、事業者や組合とつながりを持っていただくことも目的に実施しています。実際に、その現場での取組内容などについてもヒアリングを行いましたので、今後それらを生かしていくことができると思います。

事業実施者評価については、フォーカスグループインタビューの評価結果が高い結果となり、その内容が期待を込めてという評価内容で、せっかく取り組んでくれているのだから、モチベーションを下げたくないということなども心配してくださっている結果になっています。そのため、追加で事業実施者に調査を行い、実情とのギャップを比較した上で最終評価をするため実施しました。

(質 疑)

委：アンケート調査について

どのぐらいの外国人が来ていて、どのぐらいの国の分布になっているかというようなデータがなかったように思うのですが、何か資料はありますか。

指：圏域に住む外国人の方やそのお子さんの来館は少ない状況です。今後の取組として、このような方たちが来やすい場にするというのが課題だと思っています。

委：圏域の中にどのぐらいの外国人が住んでいるかデータは何かもらえるのでしょうか。

指：市で把握しているデータかと思いますが今後収集について検討していきたいと思います。

委：圏域市の担当部署ですとか関係団体があると思いますが、多文化共生に関してとか障がいを持った方とか、その辺りの方たちとの連携はどのような感じでしょうか。

組：ミュージアムを中心とした地域の多文化共生プロジェクト報告書（2019）の説明科学館のスタッフが各文化行政の集まりなどに出席し、交流を深めています。令和2年度は武蔵野大学の先生に委員としてお入りいただいています。そのようなつながりの中で類似の取組をしている方たちとの結びつきができてきている状況です。

委：I COMの参加者の視察があったそうですが、その方々の感想とか反応はどうでしたか。

**組:同報告書の41 ページを説明**

I COMの京都2019との共催事業ということで、I COMのツアーを受けた9月8日、まず多摩六都科学館を見学していただいて、ランチを取りながら、グループごとにこの科学館のスタッフも入りまして、いろいろ懇談をいたしました。その後、小平市の玉川上水の見学とふれあい下水道館の見学となりましたが、インフラ施設の下水道館としては珍しくて、母国にはない施設ということで大変興味を持っていただきました。最後に、東京都美術館で懇談会を持ちました。総合的な感想や質問は42、43ページにご報告させていただきます。

**委:** 報告書43ページに、英語の表示や解説を増やして、外国人でも楽しめ、理解できる施設にしてほしいということがあるので、今後努力されたら良いと思います。

**組:** そのように感じております。努めてまいります。

**委:** アクセスのさらなる改善については、何か新しいことはありましたでしょうか。

**組:** 科学館の北側の道路がまだ新青梅街道のところまで来ておらず、特にバス路線等、バス事業者さんも検討中だというような状況でご回答をいただいております。したがって、アクセスの改善、検討につきましては、引き続き検討というような形です。

**委:** パンフレットの減り方を見て、どのくらい外国の方が利用しているか。あるいは在日の外国の方が利用しているかも分かるという話を聞いたことがあります。現在の多摩六都科学館パンフレットの減り方のデータをお持ちでしょうか。

**組:** 韓国語と中国語のパンフレットは、昨年度文化庁の助成金をいただいた中で新たに追加して作成した分です。残数とか発行部数に関しては、今データを持ち合わせていません。

**委:** 既存のパンフレットの減り方を見てみると、利用者像というのは分かってくるのかなと思いましたので、参考の提言と考えていただければ結構です。

(休憩)

**組:** 多文化共生プロジェクトにおける地域との関わりについて補足説明。副会長をしてくださっている方は西東京市の多文化共生センターの代表理事であり、NPO法人で日本語教室や、子育て中の外国人女性のための日本語講座、地域の外国人との関わりを持っています。この方を通じて様々な情報や本事業の活動のフィールドが広がっていったらと考えているところです。以上です。

(科学館事業)

委:休館中の活動について

組:インターネットを活用した取り組み等について科学館として積極的に取り組んでいることを説明。

委:全国のできるだけ多くの館の状況をモニタリングする中で、多摩六都科学館もかなり早い段階から内部で大変な中、打合せとかかれて、オンデマンドですとか、いろんなことを発信されているというのをずっとSNSとかを通してフォローして見ている、活動を止めないという点を評価したいと思います。

(マーケティング)

委:学校の利用に関連して学校との連携はもうちょっと広げられるものじゃないかという気がするのですが。

組:この科学館がなぜあるかというような設置目的にもかなり近い内容であると思っています。取り組みを充実させたいという考えです。

指:外に出向き連携をというお話と思うのですが、科学館がなぜここにあるのかということもあります。やはり標本や模型を見て、実験装置を見て、実験をして、観察をすることが根本にあるものですから、基本的には科学館に来ていただいて、実感を伴った理解をしていただくというのが基本となると思います。

学校連携の事例としては、ある圏域の小学校から様々な連携の話をいただいています。学校が科学館をどういうふうにご利用していくかという非常に大きな視点から、科学館と小学校の連携という内容で、小学校の先生方全員が科学館に来て、授業にどういう形でそれを応用できるかといった勉強会を3回か4回に実施していただいて、その結果をその小学校の教員だけじゃなくて、市全体の教員にデモンストレーションをしたこともありました。科学館としてもお互いメリットがある関係で協力をしました。ただ、学校の授業の一環として科学館に協力してほしいということだと、すべての圏域の小学校に出向いていくのが、現実としては難しい。一方で特定の学校に協力をするという不公正さが出てしまうため、年間計画の予定の中で出向くことにならざるを得ないのが現状です。スタッフが沢山いれば、アウトリーチに多く出向きたいと思いますができないという状況です。

委:一次利用者、二次利用者について

二次利用者を増やす観点でトランクや実験キットなどをプロモートしてはどうか。来館するきっかけづくりとして有効なのではないか。

委：いろいろと集まってやるというのが非常にやりにくくなった段階で、トランクみたいなものを使って、学校の中のクラブ活動や何かで使ってもらうことなど少人数でもできるやり方もあるので、ほかの方法で何かできるといいですね。

指：科学館には標本、プログラム多数のコンテンツがあり、それをいかにトランクに詰めるか、どんなツールを用意するかというのは重大な課題として認識しています。

#### (事業計画)

委：圏域の中に住んでいる外国人の方がこの多摩六都科学館をどのくらい知っていて、科学館をどういうふうに使っているかということについては、まだまだこれからやれる場所があるのではないかと。

#### (経営計画)

##### 市民モニターへの調査、評価等と関連して

委：ジュニアボランティアへのアンケート調査は実施していますか。

組：ジュニアボランティアさんへのアンケートは、今回行っていません。10代の方の意見は必要になってくるというふうに認識していますので、今後毎年アンケートをかけながら、若い世代の意見を取り入れていければと考えています。

組：継続的なユーザーの評価については以前からご指摘いただいています。インタビューやアンケートは実施していないのですが、指定管理者のボランティアを担当スタッフに聞き取りする形で、ジュニアボランティアを卒業された方が大学生となって、またこちらに来てくれているお話などを聞いていますので、つながりは大事に、継続的なユーザーの評価というのは何かしらの形で実施していきたいと考えています。(測定方法を検討して評価していきたい。)

委：ジュニアボランティアをやられた方の追跡やそういう方とのつながりについては、多摩六都科学館でいろいろ学んだことがその後の成長にどのように生きているかということを知ることになり非常に大きなことだと思っています。

#### (総評)

委：博物館相当施設になったらどのようなグレードアップがあるのかをコンテンツのデジタル化等も含めて、また収蔵品をどのように見せていくかということも含めて、来年以降の課題としていただければと思います。

委：コロナになってからの活動というのが今後にも多分続いていく重要な基盤になるものがつくれていると思います。

委：3月の閉館がなければ、利用者も過去最大というふうなこともあり、ショップなどの収益の改善、補助金の獲得、また、学校の指導要領の改編によるプログラミングについても早めから対応を始めていること、今後のコロナウイルスの対応も課題として出てくると思いますが、全体として、非常に優れた取組をしている。

委：博物館相当施設の獲得、それから助成金の獲得等、評価する点が多いと思います。

令和元年度外部評価について

各委員で協議の結果、令和元年度の外部評価は以下のとおりとなった。

(評価の対象：指定管理者)

4ページ	①科学館事業	令和元年度評定	「A」	適正 ※A+に近い
7ページ	②地域拠点事業 - 1	令和元年度評定	「A+」	良好
9、10ページ	③地域拠点事業 - 2	令和元年度評定	「A」	適正
12、13ページ	④マーケティング	令和元年度評定	「A」	適正
15、16ページ	⑤財政計画・体制整備	令和元年度評定	「A+」	良好 ※Aに近い

(評価の対象：多摩六都科学館組合)

19、20ページ	①事業計画	令和元年度評定	「A」	適正
22、23ページ	②経営計画	令和元年度評定	「A」	適正

(評価の対象：指定管理者、多摩六都科学館組合)

27ページ	3、総評 使命ならびに活動理念	令和元年度評定	「A+」	良好
-------	-----------------	---------	------	----

中期3カ年の外部評価については、中期3カ年の自己評価内容、達成状況を整理した事業評価報告書を送付するので参照のうえ後日行うこととした。